

学生が打音調査など体験

橋梁老朽化対策で講習会

県道路メンテ会議

福井県道路メンテナンス

又会議は8日、技術系の学生を対象とした「橋梁の老朽化対策に関する講習会」を開催した。福井工業大学建築土木工学科、福井大学工学部建築・都市環境工学科、福井高専環境都市工学科の計68人が参加した。

学生たちはまず、県立

大学で、近畿地方整備局福井河川国道事務所道路管理課の松原優也保全企画係長による「道路の老朽化対策について」の講義を受けた。14年度から開始した橋梁点検が1巡し、2巡目を迎えるに当たって、ドローンによる

れた2写真①。

続いて、福井県コンクリート診断士会の山川博樹会長が「福井県のコンクリート構造物」について、アルカリ骨材反応による損傷が生じ、海岸からの飛来塩分や凍結防止剤の影響も大きいいため、劣化環境が厳しいことなどを説明した。

近接目視や橋梁点検ロボの導入で、点検の効率化を図ることなどが紹介さ

その後、永平寺町の五松橋に移動し、福井県コ

ンクリート診断士会による非破壊検査機器等実習を開始。打音調査、ひびわれ調査体験では、実際に高所作業車に乗って、ハンマーを用いた損傷具合を目視点検した2写真②。

このほか、ASRゲルステイン法の試験実演やコンクリートサンプルとドリルを用いての中性化試験の実演を行った。また、非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態およびかぶりの測定として機器を用いて、電磁誘導法、電磁波レーダー法の実体験、構造物表面の亀裂の調査として浸透探傷試験の実演もそれぞれ行い、学生たちは、インフラメンテナンスの重要性に対する認識を新たにした。

